

**SDGs 後半戦とポスト SDGs に向かって、私たちはどんなグッド・プラクティスを目指し、拡げていきたいのか：
「横浜サーキュラーエコノミーplus」の取り組みから「変革」を考える**

SDGs は、「誰ひとり取り残さない」社会を目指す世界共通の枠組みとして、2015 年から幅広い分野で取り組まれてきました。日本でも多くの自治体・企業・市民社会が SDGs を掲げた活動を行い、認知も広がってきました。一方で、「SDGs は現実離れした理想論」「DEI(多様性・公平性・包摂)は一部の人を優遇している」といった見方も国内外で目立つようになっています。気候変動政策や国際協調への期待が揺らぐ中で、SDGs の理念や方向性そのものが問い合わせられています。

このような時代状況にあっても、地域の現場では、社会・経済・環境の壁や立場の違いを越えて新たな共生・協創をつくる実践が着実に育まれています。「みんなの SDGs」は、分断が広がる時代だからこそ、地域に根差した実践にヒントがあると考え、「取り残されがちな人々」や「循環経済と社会的連帯経済」に注目してきました。2025 年に入り、「束になった流れ」を生み出しているローカルな取り組みに学び、SDGs 後半戦とポスト SDGs に向かって目指したいグッド・プラクティスを模索するセミナーをシリーズで開催しています。第1回目の前回は、障がいの視点から地域の可能性を探りました。今回は、「横浜サーキュラーエコノミーplus」の挑戦を通じて、目指すべき「変革」について考えます。

日時： 2025 年 9 月 9 日(火) 18:30 - 20:30

形式： Microsoft Teams オンラインセミナー（字幕をつける予定です）

申込： 下記リンクからお願いします（無料）。 <https://forms.office.com/r/cNRMfDbQpn>

主催： みんなの SDGs(<https://www.our-sdgs.org/>) おたがいハマ(<https://otagaihama.localgood.yokohama/>)

プログラム

司会： 岩本あづさ 氏（国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局）

企画の趣旨： 新田英理子 氏（SDGs 市民社会ネットワーク）

第 1 部： プレゼンテーション

横浜サーキュラーエコノミーplus は、環境、経済、教育、農業、健康、福祉、まちづくり等の分野を横断し、多様な主体が連携して循環と包摂の仕組みを築いてきました。地域の課題をどう捉え「誰ひとり取り残さない」未来像をどう描いてきたか、分野や立場を越えてどんな力が育まってきたか、共創・循環の仕組みづくりはどこへ向かおうとしているか、について学びます。

＜登壇者＞

- ・ 関口昌幸 氏（横浜市政策経営局 共創推進課）
- ・ 黒澤史津乃 氏（横浜イノベーション推進機構）
- ・ 杉浦裕樹 氏（横浜コミュニティデザインラボ）

第 2 部： ディスカッション

SDGs の価値が問われる時代に、どのような「変革」が必要なのか、「束になった流れ」をどう生み出すか、制度や補助金に依存しない持続可能な取り組みをどう支えるか、「変革」が地域を越えてどうつながり拡がるのか、について考えます。

＜モダレーター＞

- ・ 関口昌幸 氏（横浜市政策経営局 共創推進課）
- ・ 藤田雅美 氏（国立健康危機管理研究機構 国際医療協力局）

まとめ： 仲佐 保 氏（国際保健協力市民の会 SHARE）

参加ご登録いただいた方に限り、ご希望される方に動画の事後配信（1か月程度）を予定しております。

【お問合せ先】 みんなの SDGs 事務局 藤田雅美 fujita.m@jihs.go.jp